化学療法計画書

ID								
氏名								
生年 月日								
実施部署			発行日					
身長 (cm)	160	体重 (kg)	50	体表面積 (m²)	1	.50	Ccr (mL/min)	80.0
庁 夕	·		加加吐克					

指示医師:			
指導医師:			
投与開始予定日:	年	月	日
投与終了日:	年	月	日

病名 非小細胞肺癌 治療法 アリムタ+カルボプラチン併用療法

適応基準 扁平上皮癌を除く非小細胞肺癌

毎の筋注を行うこと

備考

	1	2		
抗癌剤·商品名	アリムタ	カルボプラチン		
規格	100mg 500mg	50mg/5mL 150mg/150mL 450mg/45mL		
一般名	ペメトレキセド	カルボプラチン		
一日投与量(規定)	500mg/ m ²	AUC*5		
患者情報から算出した 一日投与量	750.56 mg	525 mg		
実際の投与量	750 mg	520 mg		
	499.6 mg/m 2	AUC*5		
投与日	day1			
1クール期間	21日間			
予定クール数				
検査スケジュール 原則的に投与日に化学療法施行前セット 検査データに応じて臨時に検査実施				

推奨 経口剤	〇このレジメンは中等度催吐性リスク群です。 ※5HT3受容体拮抗薬+点滴デカドロン(点滴レジメン組込み)以外に以下の経口制吐剤を推奨します。 デカドロン:day2、3、4:8mg/日 イメンド:day1(抗癌剤投与前)125mg、day2・day3 80mg/日はオプションとして使用可。 ただし、デカドロン投与量を半減すること。
禁忌	1.本剤の成分又は他の白金を含む薬剤に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者 2.高度な骨髄抑制のある患者 3.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 4.重篤な腎障害のある患者
中止基準	投与前の好中球数:1000/mm3未満、血小板数:50,000/mm3未満 骨髄機能が回復するまでは投与延期 (CTCAE ver4.0 における Grade3 の血液毒性に準拠)
副作用	●アリムタ 重大 1.骨髄抑制 2.感染症 3.間質性肺炎 4.ショック、アナフィラキシー 5.重度の下痢 6.脱水 7.腎不全 8.中毒性表皮壊死融解症 (TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群) その他 (20%以上または頻度不明)食欲不振、悪心、嘔吐、大腸炎、AST上昇、ALT上昇、血中LDH上昇、血中AI-P上昇、発疹、 倦怠感、発熱、CRP上昇、放射線照射リコール反応、溶血性貧血 (5~20%)血糖値上昇、頭痛、めまい、感覚神経障害、ほでり、便秘、下痢、口内炎・咽頭粘膜炎、消化不良、ビリルビン上昇、

(1~10%未満)下痢、口内炎、腹痛、便秘、血尿、蛋白尿、発疹、末梢神経障害、頭痛、AST上昇、AI-P上昇、ビリルビン上昇、

アリムタ開始1週間前より葉酸(パンビタン末)0.5gの連日経口内服およびビタミンB12 1mg(メチコバール2A)9週間

LDH上昇、γ-GTP上昇、血清ナトリウム、カリウム、クロール、カルシウム、リン、マグネシウム等の異常、発熱、

アリムタ+カルボプラチン併用療法 観察記録

施行日) クール 回目 施行前内服薬(入外(抗癌剤用量 指示医師: 抗がん剤以外の 計画書設定量 薬剤の変更・追加 計画書設定量より減量 アリムタ (mg) -般名(ペメトレキセド) 計画書設定量より増量 カルボプラチン(mg) 減量•増量理由 -般名(カルボプラチン) 投与 口投与決定 口未決定 口延期・中止 調剤 実施 開始時間 側管 本体 2時間かけて点滴 【125mL/h】 生食 250mL 生食 100mL +アロキシ1V 30分かけて点滴【200mL/hr】 投与指 +デカドロン 3 A 生食100mL+アリムタ 10分かけて点滴【500mL/hr】 示 5%ブドウ糖 250mL 1時間かけて点滴【 mL/h] +カルボプラチン 本体終了後抜去